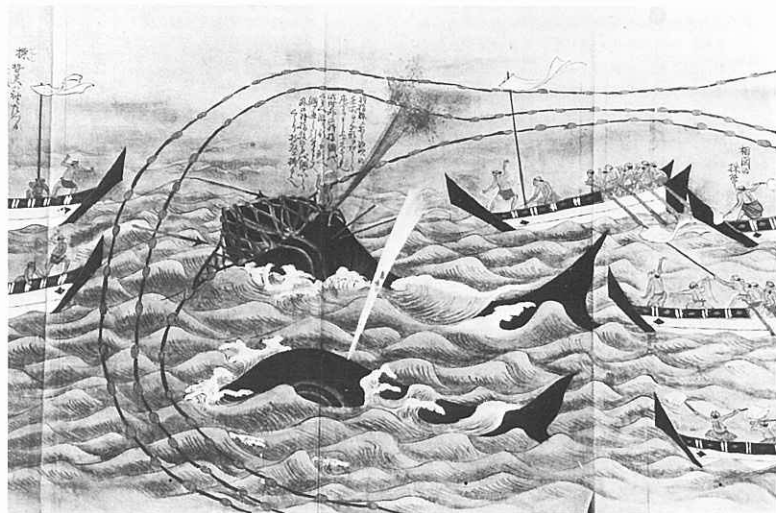


佐賀県立博物館報 №47

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL 0952(24)3947



鯨掛取りの図

肥前国産物図考 第四帖

小兒の弄 鯨一件の巻(部分)

肥前国産物図考は江戸時代中期の唐津藩(藩主水野忠任)領内の産物・生業を描いた全8帖の折本である。

著作者の木崎杖々軒(木崎盛徳)は藩の軍師で、明和年間から天明初年にかけて唐津領内を巡見し20余種の生業を実に克明に記録して解説を付している。

呼子の沖約12kmにある小川島を基地とする捕鯨業にはとりわけ強い関心を持ち、第4帖が書かれたのは安永2年(1773)杖々軒62才のときであった。

当時の捕鯨法は、銚や剣で突き殺す突取法と綱を使う綱取法の2種があった。後者は双海船で綱を三重に張り勢子船で鯨をここに追い込む。鯨は綱に絡まり何度も銚や剣で打ち込まれて動きが止まる。羽指は鯨に乗り、汐吹きに近いところの黒皮に手形庖丁で穴をあけ綱を通す。やがて鯨は捕獲され、2つの持双船にはさまれて小川島の納屋へと運ばれる。

目次

- 肥前国産物図考 第四帖部分…………… 1
- 玄界のくじら捕り展開催要項、出品予定主要資料目録…………… 2～3
- 玄界のくじら捕り展出品主要資料写真…………… 4～7
- 博物館日誌、行事のお知らせ…………… 8

「玄界のくじら捕り

— 西海捕鯨の歴史と民俗 — 展」

開催要項

名称 玄界のくじら捕り —西海捕鯨の歴史と民俗—

主旨 北極洋の鯨は秋になると日本列島の両岸でいに南下して暖海で繁殖し、春先には子連れて北上する。

日本人と鯨の関わりは縄文時代から認められるが、古代・中世を通じて、それは「流れ鯨」や「寄り鯨」を利用するといった全く偶然の出来事にすぎなかった。

漁業としての捕鯨活動は江戸時代に本格的に始まり、各地に鯨組（くじらぐみ）とよばれる捕鯨組織が出来て隆盛をきわめた。

西海地方は、肥前の五島から平戸、唐津・呼子、老岐、対馬、筑前大島、小呂ノ島、長州へと鯨場（くじらば）が連なり、太平洋側の南海地方（土佐・紀州）や三陸地方とともに三大捕鯨地であった。

西海捕鯨の鯨組では、呼子・小川島の中尾組、平戸・生月島の益富組、五島の江口組、老岐の土肥組、大村の深沢組などが著名であり、捕鯨法が突取り法から網取り法に改良されるや捕獲頭数も増えて、大名をしのぐ財力をもつ組主も現われた。

しかし、幕末ころ鯨は激減し、明治時代にはいと個人経営の鯨組の多くは解散した。

その後、捕鯨事業は株式組織で再開され、ボム・ランス式捕鯨法も採用されたが経営は芳しくなかった。このような中で、やがてノルウェー式捕鯨法が山口県仙崎で初めて採用され、近海

捕鯨は活況を帯びた。

昭和10年には南氷洋での捕鯨が始まり、近年まで捕鯨事業は私たち日本人に大切なたん白質や工業原料を提供してきたのである。

このたびの展覧会は、江戸時代以来の玄界捕鯨を中心に西海捕鯨業の歴史と民俗を紹介し、捕鯨業の発達のみならず、それが農業や商工業に与えた影響を探り、また人々の信仰や民俗行事を通じて日本人と鯨の関わりをふりかえってみるものである。

主催 佐賀県教育委員会

佐賀県立博物館

後援 山口県長門市教育委員会、
和歌山県太地町立くじらの博物館

会場 佐賀県立博物館

会期 昭和55年3月1日～3月23日

休館日 3月3・10・17日

講演会等の開催

この特別展の期間中、捕鯨に関する講演会・映画会を実施する

図録発行

展示資料に関する図録を発行する

観覧料

	個人	団体 (20名以上)
大人	200円	150円
大・高生	100円	50円
中・小生	50円	30円

出品予定主要資料目録

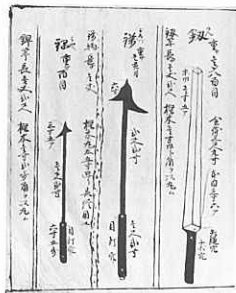
佐賀県

名称	資料所在地・採集地
肥前国産物図考(第4帖)	佐賀県立博物館
肥前国産物図考獲鯨之巻	唐津東高等学校
小川島鯨鯨合戦	玄海町・伊万里市
異国船風俗器物見取図	佐賀県立博物館
草場佩川長篇詩・鯨捕鯨行	呼子町
秀島鼓浪・北深観漁行	厳木町教育委員会
「農桑道利(巻11・12)	「
新橋江筋入込候鯨図	多久市立図書館
明治7年中 管下布達	佐賀県立図書館
12年度鯨組諸費総勘定目録	伊万里市歴史民俗資料館
明治26年度神場係日記	呼子町教育委員会
明治29年度漁監部日記	呼子町教育委員会 (小川島捕鯨会社)
明治30年度漁監部日記	小川島捕鯨会社
明治34年度獲鯨 <small>関野繁 元立金</small>	小川島捕鯨株式会社
明細帳	「
明治36年度積出帳	「
明治37年度補助支払明細帳	唐津市 <small>唐津市 唐津市 (1954年大洋漁業社)</small>
Old Japanese Whaling	「

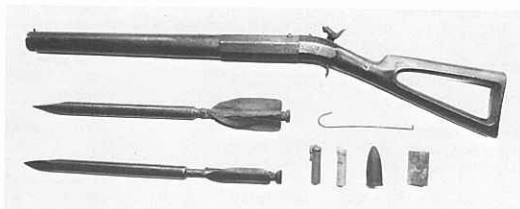
40mm捕鯨砲	佐賀県立博物館 (呼子町小川島捕鯨用具)
砲身掃除棒・砲身覆い	「
莖突	「
莖突しほり付押し棒	「
火薬つめ	「
ぼっかんしめ(火薬しめ)	「
もり(尖頭式と平頭式)	「
もり綱と覆い	「
引綱	「
よろず・じゃんす	「
みつまた	「
オール	「
とっふう・でげんばり	「
伝声管	「
大切庖丁・はらい	「
小骨切り(弁)	「
砥石・砥石入れ・砥石台	「
かぎ・手かぎ	「
イルカもり・莖突	「
どんご・旗	「
万笏・大切庖丁・小切庖丁	呼子町小川島小学校

捕鯨砲用もり(尖頭式)	呼子町小川島小学校	志岐名勝図誌卷十三	志岐郷土館
剣・段切(骨切り鋸)	呼子町	鯨船形絵馬	郷ノ浦町西八幡神社
大切庖丁・はらい・両手切庖丁	呼子町歴史民俗資料館	前目捕鯨組奉納絵馬	石田町湯島 興 神社
遠眼鏡・繪太鼓	呼子町加部島	鯨絵掛軸	志岐郡勝本町(水取組組)
大切庖丁・手形庖丁	唐津市歴史民俗資料館 (加部島捕鯨用具)	苗字目録「永取」	
大切庖丁・はらい	唐津市歴史民俗資料館 (唐津魚市場船艇用具)	永取苗字由緒書	
剣・鼻切庖丁	唐津市歴史民俗資料館 (小川島捕鯨用具)	永取家系図	
大切庖丁・小切庖丁	唐津市東城内 (名護軍捕鯨用具)	鯨鯢雲過日圖	
50mm捕鯨砲・菜葵一式	佐賀県立博物館	四年八十八箇所并奥院建立 縁記	
鯨船(勢子・双海・持双)		源朝臣詮和歌二首	
模型		前目勝本館組水鏡鑑	志岐郡勝本町湯の本
セミ鯨ヒゲ(大正9年捕獲)	呼子町加部島	万鋸・早鋸・手形庖丁	志岐郡芦辺町
セミ鯨ヒゲ(大正11年捕獲)	〃	前目捕鯨組奉納絵馬	志岐郡芦辺町箱崎塩釜神社
捕鯨船図鯨ヒゲ(昭和24年捕獲)	〃	鯨船設計図(文政三年)	志岐郡芦辺町
ナガス鯨肩骨	呼子町	勇魚取絵詞(付鯨肉調味方)	
ミンク鯨ヒゲ・セミ鯨ヒゲ	唐津市屋形石	福岡県	
ナガス鯨耳骨	〃	鯨骨製アワビオコシ	九州大学文学部考古学研究室 (後白根出土)
鯨骨製杖	〃	イルカ頭骨	〃
マッコウ鯨歯	唐津市東城内	志岐国鯨漁之図	福岡市立歴史資料館
鯨骨製土器製作台	佐賀県立博物館 (西有田 坂の下遺跡)	益富組捕鯨図	
鯨骨製装身具	呼子町大友道跡	農業全書	
松浦捕鯨図絵馬	多久市我家神社	虫道い図屏風	浮羽郡
鯨鯢供養塔	呼子町小川島観音堂	新宮浦海豚漁絵馬	粕屋郡新宮町磯崎神社
鯨念仏供養の大珠数	呼子町	熊本県	
五段重漆塗杯	〃	鯨骨製土器製作台	熊本県立宇土高等学校
献上唐津鯨絵馬上杯	佐賀県立博物館	縄文式土器	〃
虫道いの法螺貝	佐賀県立博物館	除鯨録 全・後編	熊本市
鯨組のじょうがめ	唐津市歴史民俗資料館	除鯨之法	〃
鯨はかり	佐賀県農業試験場	明和以来起元鯨油一件日記	〃
鯨油・油さし	佐賀県立博物館	書拵	〃
長崎県		銭塘手永在御家人功績帳	〃
鯨魚寝笑録	長崎県立美術博物館	公私出入帳	〃
羅針盤	(生月町館浦)	鯨油代取立帳	〃
鯨骨製アワビオコシ・新	(志岐・原ノ辻遺跡出土)	寛(鯨油拾壹斑)	〃
先・兼状品等		喪状	〃
玩具 鯨の潮吹き(親)(子)		口遣(鯨油御用係の任命通 知)	〃
鯨の鈴等		口上(鯨油販売店の紹介)	〃
五島に於ける鯨捕沿革圖説	長崎県立図書館	高知県	
志岐勢子船・持双船模型	長崎大学水産学部漁船運 用学教室	土佐の鯨玩具	高知市
生月島の勢子船板図と復元 模型	(生月町館浦末永田町)	山口県	
呼子のカンコ船模型	長崎大学	ホンモリ	長門市教育委員会 (長門の捕鯨用具)
万鋸・大切庖丁	佐賀県市文化科学館 (馬場)	ケン	〃
捕鯨銃・火矢	(平戸市)	ツマル	〃
三平鯨碑	佐賀県市川下町和多津見神社境	テガタボオチョウ	〃
鯨史稿(付魚王譚史)	松浦史料博物館	サバキボオチョウ	〃
勇魚取絵詞(付鯨肉調味方)	(安政十二年)(天保三年)	遠眼鏡・双眼鏡	〃
大島小値賀寄鯨一件并図	(安政二年)	オオボオチョウ	〃
鯨魚之真図		クジラのホネノコ	〃
西海鯨鯢記	平戸市戸石川町(享保五年)	マンリキ・ヒカギ	〃
平戸瀬戸捕鯨図絵馬	生月町館浦豊玉姫神社	ロクロ	〃
鯨絵額	生月町教育委員会	カグリ	〃
捕鯨銃(てっぽう)	〃	ドンザ	〃
火矢・火矢抜き	〃	大福帳・銭袋	〃
ばっかん・掃除棒	〃	焼臼(一式)	〃
マッコウ鯨歯製置物	〃	算盤・ボウバカリ	〃
深沢与五郎肖像画	大瀬戸町松島正定院	捕鯨営業鑑札	〃
深沢・中橋家永代供養帳	〃	繪太鼓(台付)・弁当箱	〃
過去帳第一号	〃	ヤスリ・クダモリ	〃
剣・万鋸・つばめ鋸	〃	ツンザシモリ・クダ	〃
手形庖丁・捌き庖丁	志岐郷土館	以上42点は重要有形民俗文化財	
鉈(なた)・目こり針	〃	鯨絵巻	長門市教育委員会
金比羅宮御守札	〃 (元治二年)	捕鯨組・捕鯨ノ図絵馬	長門市通公民館
		古地図・道具箱	長門市教育委員会
		鯨の位牌・鯨鯢過去帳	長門市通向岸寺

出品主要資料

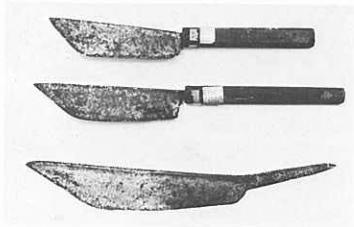


捕鯨用具 小川島鯨鯨合戦(部分)
天保11年 編者豊秋亭里遊 画工
溪柳舎希菜(安政7年写大久保本)

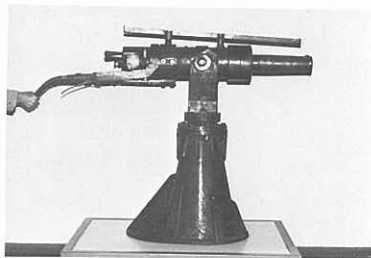


平戸式捕鯨銃(一式) 長崎県北松浦郡生月町一部浦
銃 長94.8cm 火矢 長53.8cm 火矢 抜き長19cm

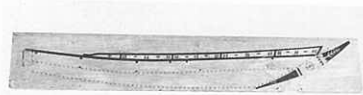
鉄砲の筒先から込めた火矢が命中するとその衝撃で火矢の中の火薬が破裂して鯨を死に到らしめるのが銃殺式捕鯨法である。この捕鯨法は明治5年頃平戸血川の植松捕鯨組で行われており、生月島でも程なく採用されたようである。小川島捕鯨会社では明治30年に初めて銃士を平戸から雇っている。この捕鯨法の難点は火矢が撃ち放して、火矢と船を結ぶ綱がないため鯨がしばしば行方不明になることであった。



解体用具 佐賀県呼子町小川島
はらい(上)長55cm 幅63cm
大切庖丁(下)長63cm



捕鯨砲 佐賀県東松浦郡呼子町小川島
長 155cm 高 113cm ミンク鯨用40ミリ砲



鯨船板図と復元模型 長崎県北松浦郡生月町館浦
杉板縦20.6cm 横 126.5cm

板図(いたず)とは船大工が板切れに引いた造船用の設計図である。表面に勢子船の側面形を裏面に平面形の縦半分を書いている。本品は明治時代頃に生月島で使われた船の板図であり、模型はこれをもとに縮尺20分の1で復元したものである。



肩骨(おうぎばね) 佐賀県東松浦郡呼子町
縦68.5cm 横 102.0cm

鯨の胸ヒレはタッパ(立羽・達羽)と呼ばれるが、肩骨はタッパの付け根の坊主骨と接している扇形の骨である。墨書銘に見ると昭和13年の冬に捕獲されたナガス鯨(全長約22.7m)の骨を満3年海中に浸して肉や油を落したものである。



納屋場の図 肥前国産物図考 第4帖(部分)

小川島の納屋とよばれた作業場の配置と浜での解体風景が描かれる。鯨を捌く人、ロクロを巻く人、役人の監視の目をかすめて鯨肉をカンダラ(窃盗)する人を描く。



鯨魚覽笑録 一卷(部分)

縦37.8cm 横1297cm 生島仁左衛門常敬



勇魚取絵詞(文政12年)と鯨肉調味方(天保3年)



組仕出祝席ノ図 小川島鯨観合戦 安政7年 大久保・写本 天保11年 豊秋亭里遊著 溪柳舎香楽画

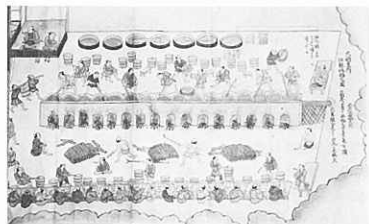


捕鯨船図クジラヒゲ 佐賀県東松浦郡呼子町加部島
ヒゲ長90.5cm

捕鯨砲で捕獲した鯨を船首左舷に吊して加部島へ向う捕鯨船「文丸」を描く。「昭和24年2月1日初漁66尺ノ白長須 小川捕鯨会社」の墨書銘がある。

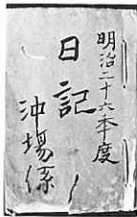


鯨史稿 6冊(付・魚王譚史1冊) 大槻清準 文化5年
奥州水沢の蘭学者、大槻清準が著した江戸時代の鯨に関する最大の集大成本で、「鯨志」「鯨記」「肥前国産物図考」等を多く引用。彼は長崎遊学中に平戸生月島の益富組の捕鯨を実見している。

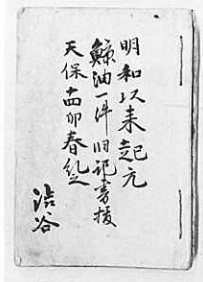


五島に於ける鯨捕沿革図説 全3冊(部分)

鯨魚覽笑録と同内容であり、第3冊末尾に「鯨組定法書」を取め生島仁左衛門の署名に続けて、「天保二年即仲冬霜月 青方田富運善写之」と記す。従って本書は鯨魚覽笑録と同じく「小川島捕鯨絵巻」の写本である。



明治11年創設の小川島捕鯨組は、同21年に小川島捕鯨会社と名称を変更し、同32年には株式会社組織変更した。職制に庶務部、漁監部、出納部、器械部、司殺部、魚棚掛があり取締役がこれを分掌した。



明和以来起元 鯨油一件旧記書抜
縦24.4cm 横16.2cm 紙数54枚

熊本肥後藩の鯨油係役人を勤めた洪谷家に伝わる明和3年から文化元年に至る記録。鯨油の有効性及び購入の仕組み・値段をはじめ、肥後藩の鯨油政策が知られる。



除蝗録 大蔵永常著
文政9年(1826)発行
縦22.7cm 横16.1cm
紙数32枚

江戸時代の米作りは害虫の大発生によって凶作となり大飢饉が続発した。本書は蝗(稲の害虫の総称)の駆除に鯨油が有効であり、その使用法を指導した農業書である。

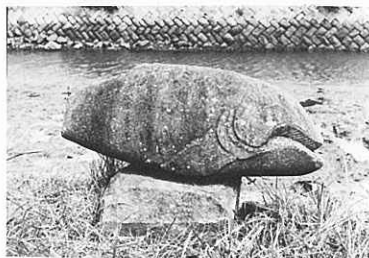


海豚捕り絵馬(部分) 磯崎神社 福岡県粕屋郡新宮町
縦87.5cm 横135.2cm 枠幅7.5cm
銘文 上枠 奉掛 右枠 天保五甲午年11月吉日
左枠 當浦鯨網中 左下方 春汀

福岡県の玄界沿岸は砂浜が連なり、新宮浦や福岡浦では江戸時代から地曳網の鯨漁が盛んであった。絵馬は網を追ってきた海豚20頭余りを捕獲した状況を描いたもので、新宮浜の地形は正確で、海豚や漁師たちの動きを「春汀」は実に達者な筆致で描いている。



鯨鯨供養塔 佐賀県呼子町小川島観音堂境内
高70cm 刻銘 鯨鯨供養塔 文久三亥□月吉日



三平鯨碑 長崎県佐世保市川下町和多津神社境内 昭和初年建立

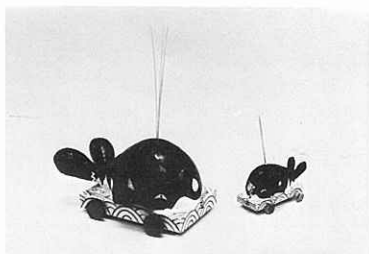


漢詩(観捕鯨行) 草場佩川
 縦 178.0cm 横96.0cm 文政3年作
 弘化4年書

(参考)小川島捕鯨株式会社の捕鯨実況(観光写真)



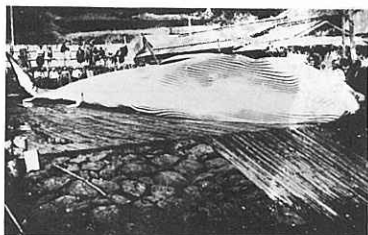
捕鯨船 (左)第一大東丸(右)第二大東丸



鯨の潮吹き(玩具) 長崎県長崎市
 (親) 長20cm 中山善蔵作



捕鯨船マスト上の鯨捜索見張台



加部島にあった解剖場の長須鯨(全長29.7m)



長須鯨解剖作業の実況



献上唐津鯨絵馬上杯 佐賀県東松浦郡呼子町
 高18.3cm 口径16.8cm 江戸・後期

11月4日	「一古代九州の遺宝一鏡・玉・剣」展終了 (総観覧者数5417名)	1月4日	執務始め
11月5日	「佐賀県美術展」準備のため臨時休館(16日まで)	1月10日	「グラフィックデザイン展」開場
11月17日	「佐賀県美術展」開場	1月16日	「グラフィックデザイン展」終了(総観覧者数585名)
11月25日	「佐賀県美術展」終了(総観覧者数13114名)	1月19日	「書初展」開場
11月26日	「佐賀県高等学校芸術祭美術・書道部門展」準備のため臨時休館(27日まで)	1月23日	「書初展」終了(総観覧者数1150名)
11月28日	「佐賀県高等学校芸術祭美術・書道部門展」開催	1月27日	「勤労者美術展」開場
12月4日	「佐賀県高等学校芸術祭美術・書道部門展」終了(総観覧者数1176名)		
12月5日	「佐賀県学童美術展」準備のため臨時休館(7日まで)		
12月8日	「佐賀県学童美術展」開催		
12月11日	常設展「佐賀県の歴史と文化展」開催		
12月12日	「佐賀県学童美術展」終了(総観覧者数1727名)		
12月28日	執務納め		

行事のお知らせ

昭和54年度

常 設 展		(原則として月曜及び祝日の翌日休館)	
佐賀県の歴史と文化展	12月11日 55年 ～3月31日	大 人 50 (30) 大・高生 30 (20) 中・小生 20 (10)	佐賀県の地質や自然および先史時代から現代にいたる歴史と文化についての理解を深めるために自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の各部門について、系統的に資料を展覧する。

団体は20名以上、()内は団体料金

企 画 展		(月曜休館、月曜祝日の場合は火曜休館)	
展 覧 会 名	会 期	観 覧 料	備 考
佐賀大学卒業制作展	2月21日～2月24日	無 料	会 期 中 無 休
玄界のくじら捕り - 西海捕鯨の歴史と民俗 -	3月1日～3月23日	大 人 200 (150) 大・高生 100 (50) 中・小生 50 (30)	3、10、17日休館

会期は都合により変更されることがあります。修学旅行等の計画に博物館の見学を組み込んで下さい。

博物館報	第 47 号
発行年月日	昭 和 55 年 2 月 1 日
編 集 行	大 塚 正 道
発 行 所	佐賀市城内1丁目15～23 佐賀県立博物館
印 刷 所	佐賀印刷社